

洪水

外水氾濫と内水氾濫

「たつの市防災マップ」における浸水想定区域は、河川が氾濫した場合(外水氾濫)を示しています。河川が氾濫していない場合でも、水路や下水道からの浸水被害(内水氾濫)に注意しましょう。

河川が氾濫する 外水氾濫

大雨によって河川を流れる水が大幅に増え、堤防から水があふれたり、堤防が決壊することにより水が流れ出す現象を「外水氾濫」といいます。



水路や下水道等があふれて起こる 内水氾濫

大雨により、河川の水位が上昇することで下水道や水路からの排水ができなくなり、水があふれ出す現象を「内水氾濫」といいます。



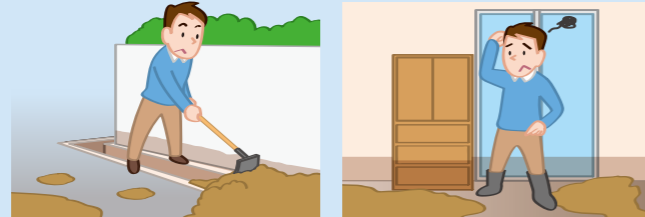
大雨によって想定される被害

道路の冠水



エンジンが停止したり、ドアが開かない等、車内から出られないことがあります。

床下浸水・床上浸水



流れ込んでくる水は泥水であり、水が引いた後も土砂や汚泥が堆積するため、足元が危険です。

家屋の倒壊



河川沿いでは、家屋が倒壊し、命の危険性もあります。

早期の立退き避難が必要な区域

家屋倒壊等氾濫想定区域

家屋の倒壊をもたらすような氾濫や河岸の侵食が発生するおそれがある堤防沿いの地域は、早期の立退き避難が必要な区域です。

氾濫流



堤防が決壊や氾濫流により木造家屋の倒壊のおそれがあります。

河岸侵食



河岸が削られて家屋が崩落するおそれがあります。

浸水継続時間の長い区域

浸水継続時間とは、浸水の深さが50cm以上になってから、50cmを下回るまでの時間を示したものです。「たつの市防災マップ」では浸水継続時間が72時間以上の区域を網かけ表示しています。

浸水継続時間の長い区域で立退き避難を行わなかった場合、ライフラインが絶たれ避難生活が困難になるおそれがあるため、早めに避難しましょう。



浸水によって孤立が長期化した場合、生活環境の悪化が想定されます。

洪水時の適切な避難行動

避難行動

■ 浸水想定区域内では立退き避難を!

立退き避難

浸水想定区域内に自宅がある場合は、早めに避難所へ避難しましょう。



屋内での安全確保

逃げ遅れてしまったら自宅の2階以上に避難しましょう。



■ 避難は「浸水が始まる前」「自主判断」「徒歩」が大原則です

大雨等の災害による危険がせまると、市から高齢者等避難や避難指示を発令し、市民の皆さんに避難を呼びかけます。ただし、**身の危険を感じたら市からの呼びかけを待たずに避難しましょう。**



動きやすい服装で、必要最小限の荷物で避難しましょう。



歩きやすい「はき物」をはきましょ。長靴は、水が入ると重くなるのでやめましょ。



歩いて避難できる深さは、ひざ下程度といわれています。ただし、流れによっては足をすくわれる危険性があります。



地面が見えにくくなり、マンホールや水路等に落ちてしまう危険性があります。棒を使い、足元に注意して歩きましょう。



夜間の避難は、周りの状況を確認しにくく、非常に危険です。可能な限り暗くなる前に避難ましょ。



子どもやお年寄りの避難を手助けましょ。(早めの避難が大切です。)



車での避難は控え、徒歩で避難ましょ。車は浸水すると故障し、緊急車両の通行の妨げになる可能性があります。



地下道(アンダーパス)には、水が溜まっている危険性があります。違うルートを通りましょ。